

● 胴塚

6月4日己の刻（午前10時）宗治は兄月清、軍監末近信賀、家臣難波伝兵衛等と秀吉の石井山本陣の下へ漕ぎ出し、秀吉から贈られた酒肴と上茶で最後の宴を張り誓願寺の謡を舞い辞世を残して自刃した。この主従を介錯した国府市之允は首を検視の堀尾茂助に渡し、胴を池ノ下丸に葬り自分もその穴へ自ら首をはねて殉死した所という。



● 自刃の址 三の丸妙玄寺の庭先に両軍戦死将兵の冥福を祈るため供養塔を建立した。

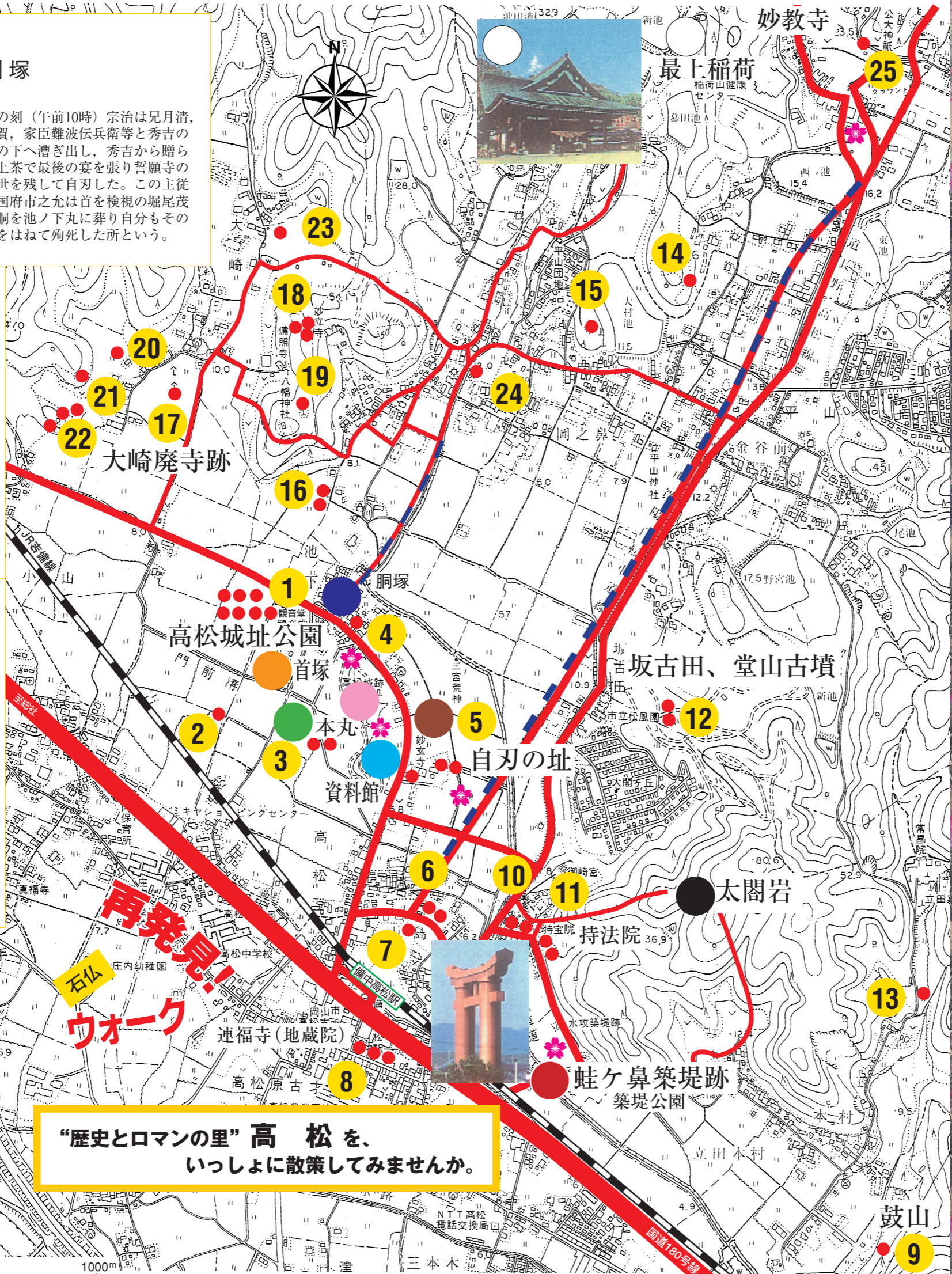


● 蛙鼻築堤跡 堤底22m, 上巾11m, 高7m, (城地の比高が3.5mであったから)。「武将感伏記」に土俵1俵, 米1升と銭百文, 総計銭63万5040貫文, 米6万3504石を要したという。国の史跡に指定されている。



● 太閤岩 秀吉の本陣のあった所で彼は常に前線に出て指揮に当り築堤も自ら馬で標示したという。

- 印は、文英石仏の所在地
- 印は、石仏の数
- 印は、W.C



● 本丸 天正10年（1582）羽柴秀吉が高松城を包圍襲撃した時三十余日に亘る城將清水宗治の勇戦勇闘を称えて「古今武将の明鑑」と絶賛させた所で、戦史にも珍しい水攻遺跡として大正13年2月国の史蹟保存指定地となる。



宗治公辞世の句「浮世をば今こそ渡れ武士の名を高松の吾に残して」

● 天聴記念碑



昭和5年11月陸軍特別大演習の際、県立高松農学校長を勤めた高田馬治氏が五十余年の研究を天聴に達した、この戦史にも珍しい水攻めと武士道を貫いた宗治公を顕彰された。

● 宗治公首塚

天正10年6月4日敵味方7万環視の中で46才を一期として自刃し秀吉をして古今武将の明鑑と感嘆させた。宗治公の首塚は石井山の上に葬ってあったが明治42年多くの参拝者の便を計って本丸へ移し祀った。



● 資料館 休息所で水攻の資料展示（二の丸跡にあり）